地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中にとけ込めるよう運営推進会議等を開き、皆さんの意見をお聞きし、ホームを理解して頂けるよう努めている。又、ホームの行事等は地区の方々に参加してもらえるよう自治会を通してお知らせしている。	○	昨年末には、ポン菓子屋さんを呼んで地区の方にも参加を呼びかけている。 利用者のお一人が中国帰国子女で、本場仕込みのギョウザを利用者･家族･地区の方の参加で作り、食べて頂いた。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいたより良い介護の実践を目指して、試行錯誤している現状である。 失敗例を糧として、理念に近づくことができるよう、職員と共に励んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用者･家族･来訪者の皆さんによく見て頂き、わかってもらえるよう文書や掲示等で示し、玄関など目立つ所に貼り出している。 契約時にきちんと説明して、契約している。	○	家族には理解していただいていると思う。 今後は地域の人々への浸透を図っていきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	周囲を農道に囲まれている為、近隣の方も朝夕散歩される方がおり、お会いする毎に挨拶を交わしたり、又、庭の草花を持って来てくださる方もおり、気軽に立ち寄って下さる。	○	地域の方が歩行困難となり、中古車椅子購入の斡旋を依頼され、業者を仲介して感謝された事例がある。今後共、地域に根差した施設として、地域への貢献もしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進委員会を開催し、自治会･老人会の方にも参加して頂き、自治会の班長さん、老人会会長さんを通して、地区の行事等に参加し、地元の人々と交流している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員会議で年中行事等を計画する時、地域の皆さんに役立つこと、協力できることはないか話し合っている。	○	地区の掃除の日は、運営者･利用者と一緒に掃除に参加している。 認知症相談窓口を開設し、地区民に利用を呼び掛けたい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価で、出た意見は全職員で討議し、具体的に実施する方法を検討している。	○	調理場の後側が狭くて危険と評価があったので、その午後には片付け、翌日には全て除き広くした。 家庭用洗剤を手の届きにくい高所へ収納するようにした。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に於いて出た意見は、職員に知らせ皆で話し合っている。	○	今のところまだ苦情は出ていないが、出ないように皆で努力している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当課にはコンタクトをとり、電話等で相談している。	○	経営者が市の元職員であり、市との連携はとれている。 市介護相談員2名が毎月1回来所され、約1時間半ほど利用者・職員と団欒される。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議等で、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学んでいる。 必要な人が現れた時には、活用できるようにしている。	○	経営者が講師を担当し、成年後見制度等について学んでいる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待は行っていない。職員はケアを行う中で、拘束･虐待が行われてないか互いに注意防止に努めている。	○	利用者の自宅においても、虐待が行われた兆候は見られない。注意深く観察している。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明については、一家族毎に詳しく説明と意見交換を行い、充分納得して頂いた上で署名・捺印をして頂いている。	○	契約書は説明した上で御自宅に持ち帰って頂き、御自宅でも充分再度検討してもらっている。その上で、署名・捺印してもらっている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者の一人を受け持ち、その方の生活全般を見守っており、その中で不満・苦情を見つけ出し、見つけた時は職員会議で出すようにしている。	○	意見・不満・苦情を表せない利用者がいないように全職員で気を付けている。 保育所理事長に苦情相談員をお願いし、月２～３回訪問して頂いている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月に1回通信を各家族の方にお渡ししている。 家族等の来訪時にタイムリーに現状の報告をしている。	○	利用者の急変に際しては、その都度早急に家族に知らせている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見や苦情を匿名で承る箱を設置している。又、、面会時にも個々にお尋ねし、運営に反映している。開設以来、苦情は1件もない。	○	玄関に、民生委員や老人クラブ会長・苦情相談委員の住所・電話番号を掲示している。 家族会の最後には、施設側は退却し上記の方々との話し合いの機会を作っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回の職員会議に限らず、気付いた事はいつでも運営者・管理者へ伝えることができる。運営者・管理者共、いつでも聞く心がまえがある。	○	意見や提案はいつでも気軽に出し合える雰囲気がある。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	開設して3年たち、利用者の体力・認知度に変化が表れる時期も近いと思う。1対1の介護が必要になる前に、勤務体制・時間の調整を考えているところである。	○	本年7月には、2ユニット目がオープンする予定であり、職員数の増により、緊急時等の対応も、柔軟にとれるようになる。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ2年の間、離職した職員はいない。 グループホーム1棟の為、異動はない。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修を2名、認知症対応型サービス事業者研修を2名受講予定。昨年度は学習療法士養成研修に2名、鹿児島での研修に1名を派遣した。	○	開設3年になるが、介護福祉士1名、社会福祉主事任用資格者1名、ガイドヘルパー1名など、職員の希望により様々な資格者が増えている。経営者、管理者によるOJTも適宜行っている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの相互訪問し、お互いの仕事を研修しあっている。	○	グループホーム太陽の丘との交流を行っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間で気兼ねなく話し合う雰囲気は十分にある。 運営者によるコーヒーの差し入れや、家庭菜園の野菜の支給をしている。	○	飲み会を催したり、職員同士間の会食に補助金を出す等の工夫をしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者や職員の個々の状況を把握しており、勤務もそれに応じて作っている。	○	新たな資格取得者には、給与面で処遇する等、常に職員の向上心を喚起している。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面接により、本人の状態や困っている事・不安・求めている事をお尋ねし、受け止めている。	○	より良い人間関係を構築するためには、初対面の印象がポイントであると思う。 入居者と共感できるような関係づくりに努力し、相互信頼が築けるケアに全職員が心がけている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面接時に、家族の困っている事・不安な事・求めている事をよくお尋ねし、受けとめている。	○	入所前に何回か見学に来て頂き、ホーム内をくまなく見て頂いている。その折、ご家族の困っておられる事・不安な事をうかがっている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	老健施設からの移行が殆どで、在宅の場合は家族が介護できない症状になるまで頑張っておられた方でしたので、他サービス利用の検討をした事例なし。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	上記事由により、入所したては家族にお願いして頻繁に面会に来て頂いたり、外出におつれしたりしている。	○	ご本人の好物を食事でお出ししたり、皆さんと早く馴染んでいただけるようなレクリエーションを行っている。
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全てを職員が行うのではなく、本人さんにも生活日課を協力して頂いている。（掃除、洗濯、調理など） 持っている知恵･工夫を学びながら、必ず「ありがとうございました」と感謝の言葉を添えている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームからの通信を通して入居者の日々の生活をお知らせするだけでなく、家族の方にも参加をつのっての外出等を計画している。 家族もよくホームを訪問されている。	○	社協のバスを利用して花見・納涼祭・温泉旅行等を計画し、家族参加の場を作っている。 利用者と職員は子や孫のような関係になるよう心掛けている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の訪問は、入居者が起きておられる時間帯ならいつでも受入しており、個室や食堂で一緒の時間を楽しくすごしていただけるようにしている。	○	月２回の音楽療法やボランティアによる歌や踊りの時は、家族等にも案内し、訪問の機会の創出に務めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の馴染みの方は家族の方にお願いして来て頂いたり、又、家族の方にその方の近況を伺ったりしている。馴染みの場所には家族が対応できるところはお願いしているが、対応できない時は職員で対応している。	○	馴染みの場所に行きたいが家族がいない為、職員の対応で年に１～２回だが、馴染みの場所に案内したり自宅へ帰られた方がおられる。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	調理の得意な方、掃除が得意な方、洗濯のたたみ方が得意な方、各々の得意分野でお互いが認め合えるように努めている。	○	連れたって散歩に行かれたり、絵画をしたりと、利用者同士が関わり合っておられる。職員はそのきっかけ作りを行っている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方々には、病院等にお見舞いに行き関わりを保ち、相談事にも応じている。	○	退所者の家族と職員は、趣味（野球等）を通じて現在も交流している。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各自の居室には、それぞれの使い慣れた家具、家族との写真等を飾り、その人の生活がしのばれる雰囲気を作り出している。希望の申出がない方には、職員の方から尋ねるようにしている。	○	入居者が「何をして欲しいと思っているか」「何をしたいのか」その心を感じとり、共感することにより、信頼関係を築くことができるよう常に努力している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方のたどってきた道のりを家族の方に尋ねたり、ご本人や事あるごとに尋ねて、その方の人生、生きてきた道のりを教えて頂いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	元気だった頃、又、仕事に励んでおられた頃をご本人や家族にお聞きしながら、今まで生きてこられた道を総合的に把握しようと努めている。	○	入浴時1対1になった時、利用者の昔の事、得意な事を話して頂く事がある。
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、月例の職員会議で討議し、ケアについては職員がお互いに理解し納得いくケアを行っている。	○	家族の介護に対する思いを、これまで以上ケアプランの中に生かしていきたいと願っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3か月に1度見直し、6か月に1度はケアチェックを行った上で、再度介護計画をしなおしている。	○	転倒で骨折された方は、その症状に応じて約1か月で見直しを行い、又、その経過において状態に応じた介護計画を立案している。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人毎のファイルに、体温・血圧・摂取量（食事・水分）、排泄の事項、及び毎日の心身の状況を具体的に記録しており、次期介護計画に反映している。	○	職員が気付きや情報収集がしやすい様に個別記録様式を工夫している。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開所して、ようやく三年目を迎える年となった。これから、事業所の機能を充実させ、いろいろな要望やその時々に応じたことを活かしていきたいと思っている。	○	学習療法１級資格を2名の職員が取得し、施設で実施していく方向で家族と話し合いをしている。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア来訪時に地域の皆様にも声かけし、見に来て頂いている。地域とは積極的に関わっていく方針である。保育園とは、年３～４回定期的に交流している。	○	高校生のボランティアや歌や舞踊のボランティアの方がよく来訪して下さり、利用者の皆さんと楽しい時間をすごしてもらっている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	丸三年たち利用者とも慣れ、地域の他のサービスにも目が向くようになった。これからは、他のケアマネージャーやサービス事業所と話し合っていきたいと思っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	在介センター等には積極的に出向き、ホームの現状や情報を伝えている。センター等の職員の来訪も多い。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の内科・外科がかかりつき医となっており、急な熱発や夜間の受診に対応して下さっている。	○	24時間対応の、早稲田内科神経科在宅療養支援診療所とも協定書を交わし、万全の体制を整えている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科病院がホームの前にあり、協力医療機関として契約している。 救急対応のできる医療機関と契約している。又、ホーム隣接の内科外科医院が即座に対応している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	正看護師を配置しており、勤務時間外でも電話連絡ですぐに対応できる。	○	隣接の医院の看護職も利用者の健康状態は細かい点まで把握しており、気軽に相談できる。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、家族と細かな連絡をとり退院後のことも家族と話し合い、ご本人の状態により介護をしていきたい。	○	転倒により大腿骨頚部骨折をされた利用者が、術後2週間でホームに帰ってこられ、約1か月で車椅子から杖歩行となりめざましい回復をみせた。 退院後、職員は一分のゆうよも見せられず大変な介護だったが、その体力の回復力には、皆喜びの声をあげている。現在は杖を忘れるほどの回復である。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人や家族が望まれるなら医療と協力体制をとり、最後まで看取っていきたいと思っている。 看取りに関するホームの方針や受入れ記入した書類を玄関に掲示している。	○	在宅療養支援診療所と提携書を交わし、バックアップ体制を整えている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ終末期を迎えられた方がおられないので、その詳細をのべる事はできないが、家族、医療と連携をとりながら、最後までその人らしく生きて頂ける介護を行いたいと思っている。	○	寝たきりになられた時は、自室で入浴できるよう給湯設備、移動用浴槽が完備している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病気入院による退去事例があるが、家族とよく話し医療機関との連携を充分に行い、スムーズに次の場へ移り変わる事ができた。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「その人」を常に受入れ、「その人」らしい生活を送って頂く為の援助・ケアをさりげなく行っている。	○	言葉使いは充分注意し、尊厳を尊重して接している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の希望を尋ね、実現できるように配慮する。 ご家族にも本人の希望を聞いて頂き、できることはご家族にも協力して頂いている。	○	「利用者のためになりたい」という気持ちを常に持ち、利用者が何を求めているか、表情、しぐさに注意を払って気持ちを吸み取っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合ったペースですごして頂いている。	○	塗り絵が好きな方、針仕事が好きな方、歌が好きな方、いろいろ自分の好きな事を楽しみながらすごされている。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣時、好きな色･柄の服を選んで頂いている。 理容･美容は家族と相談しその人に応じて行っている。 職員も髪型等本人の好みを把握している。	○	自分の行きつけの美容院に行かれている。 お孫さんが美容師さんなので、そこまで家族と行かれている。 ホームに理容師さんが来られた時に、髪を切られる方もいらっしゃる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食事を頂き、さりげなく介助や言葉かけを行っている。最近では利用者の方から食事の準備を希望する方が多くなった。	○	材料を切ってくださる方、配膳して下さる方、後片付けをしてくださる方、茶碗を洗ってくださる方、その時に応じ皆さんに手伝って頂いている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒は医師より止められている方ばかりだが、養命酒・梅酒（職員が作ったもの）等を楽しまれている。	○	缶コーヒーが好きな方は、職員と一緒に近くの自動販売機まで行き購入している。 買い物に職員と行き、食べたいおやつを購入されている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつパットの使用は、家族とよく話し合い、その人の日常生活にあった物を使用している。又、個人日誌にてその日の状態を把握している。また、誘導の声かけも他利用者に気付かれぬ様に配慮している。	○	入所したての頃は、はくパンツを使用された方が布パンツになり喜ばれた。 夜間はくパンツの方を夜間のみオムツ使用にし、ぐっすりと休めるよう工夫している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その方の希望により、早めの入浴、遅めの入浴と希望に合わせて入浴して頂いている。 その日の体調を確認した上で入浴をすすめる。	○	夏場は夕食後、シャワー浴をされる方もいる。 バイタルチェックは毎日行っており、バイタルに異常があった時は入浴前に再度計測している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各人の生活のリズムに合わせたサポートを行っている。 適度な疲労が睡眠に良いため、散歩や買い物等の外出の機会を創出している。	○	疲れが見られる時は、職員が昼寝を促すなどの気をつけている。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一職員が利用者の一人を担当し、その方の得意･不得意、好きな事・やりたい事を把握し、その事を生活の中で生かし、役割とし楽しんで頂いている。	○	「出来る事はやらせて一」と利用者の方から催促されるので、掃除･調理等は毎日どなたかに手伝って頂いている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材購入等の機会を利用したり、個別に出かけたりなどしてその欲求に応じている。 金銭管理は可能な限り本人に任せるようにしている。	○	通院の行き帰りを利用して、買い物を行っている。 買い物デーを設け、ショッピングを楽しんでもらう。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力のもと墓参りに行かれたり、他市の実家へ家族と一緒に外出されたりしている。 4年ぶりに職員と実家に戻り、それ以後、時々帰られる。	○	花見や納涼祭等にも参加している。 家庭菜園や花壇の見物、散歩等、ご本人の希望に対応している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と協力して年間計画の中に取り入れ、温泉旅行を楽しまれ大好評だった。 遠出やドライブ等に出掛け、生活に変化をつけ適度な刺激づけを行っている。	○	市社協のバスを利用し、家族と一緒に楽しい一時をすごして頂いている。又、県・市の催し物にも見学に行っている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話したい時に電話をして頂いている。 レクリエーションで牛乳パックよりハガキを作り、そのハガキで家族に手紙を出している。	○	歩ける方や昼間の電話希望には、施設玄関先の公衆電話まで行って頂く。夜間や歩けない方には事務所より電話してもらっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・友人・知人等馴染みの方は、いつでも気軽に訪問して下さっている。その時に応じて、居室や食堂でゆっくりと過ごして頂いている。	○	家族等がお帰りになる際は「又、いつでもおいで下さい」「お孫さんやお友達もご一緒に来てください」と声掛けをしている。
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。行ったことない。	○	長く一緒に生活していると言葉使いも乱れてくるので、職員同志そんな事ないように注意しあっている。 利用者の呼び方にも注意している。常に「家族の方がいらして恥ずかしくない言葉かけ」を目指している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関も裏口も鍵はかけず、チャイム・鈴で対応している。ボリュームも職員がわかる程度にしている。	○	散歩等は利用者が行きたい時に行かれ、職員は利用者の行動を把握しており、その行動に対応している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者の生活を把握しており、その人、その人の安全に気を配っている。	○	食後はゆっくりしたい方は居室は誘導、テレビを楽しみたい方はテレビをつけるなどその人に合わせたケアを行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は、その使用時以外は目にふれない所へなおして、危険を防いでいる。	○	包丁類は箱の中へ、洗剤等は棚の中や高い所へ収納している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	普通救命講習を受講した職員が5名おり、事故が起きた際も被害が最小限に抑えられる様、訓練をしている。	○	事故に関しては、その都度、報告・連絡・家族への相談を行い、きちんと整理し保存している。 防火管理者研修受講者が、職員会議の席で研修内容を話し、共通認識に努めている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成し、全職員が対応できるよう訓練している。	○	救急法を全職員が受けるよう計画している。 （職員9名中、5名受講済み。残り4名も5月、6月に受講予定）
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時マニュアルを作成し、全職員が対応できるように訓練している。	○	避難訓練は冬の寒い時期を除き毎月行っている。 地域の消防団や老人クラブ等との連携を常に図っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒・他利用者との争い等、一人ひとりそれぞれのリスクがあるので各家族と話し合っている。連絡先の確認等、各々細かく話し合っている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化、異変がおきた時はすぐに家族に報告し必要に応じては、受診して頂いている。看護師にも連絡し、指示をあおいでいる。職員間では申し送り・個別日誌・連絡帳で連絡を取り、情報を共有している。	○	2軒隣にある内科・外科医院と連携しており、夜間も対応してくださる。 バイタルチェックは毎朝行い、観察も密にして早期発見、対応に心がけている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬は職員で行い、週3回は看護師がチェックしている。 服薬は全員で行い、その都度名前を確認し、飲ませ違いのないようにしている。	○	ここ1年半以上、誤薬・服薬もれはない。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便記録を毎日記入し、便秘が続く時は看護師と連絡を取り指示をあおいでいる。食事では食物繊維をとるようにし、日常生活の中では散歩等を行い、体を動かしている。	○	施設の周囲は田んぼが多く、車の通行の少ない農道を散歩している。 ヨーグルト・牛乳をを毎日摂取している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、その人に応じた声かけ、介助にて口腔ケアを行っている。	○	月2回歯科衛生士による口腔ボランティアで、口腔ケア体操を行っている。 週1回入れ歯洗浄を行っている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・カロリー・水分等の摂取量は、毎日記録し過不足がないように注意している。	○	カロリーは1日1500kcal、水分は1日1500ml以上としている。 糖尿病の方には、1日1200kcal（おやつも含む）とし、キーパーソンの理解のもとにマンナンライスを使用している。 献立表は近くの病院の栄養士にみてもらっている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外出から帰った時のうがい・手洗いを励行。 外来者にもうがい・手洗いを依頼している。 毎日夜勤者が、ハイター希釈水で廊下やドアノブ等の掃除をしている。	○	毎年インフルエンザ流行時には、内科医に相談し、早目の予防接種を依頼している。 肺炎の予防接種も高額ながら家族と相談の上、昨年全利用者に対し行った。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は3日分を限度とし、その都度新鮮なものを購入している。購入後は、その食材に合った保存を行っている。 台所の調理用具は毎日消毒している。	○	施設の家庭菜園で採れた新鮮かつ無農薬の野菜を主に食材としている。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地の周りには柵がなく、施設のまわりは花を植え、季節毎に花を楽しむ事ができる。	○	花や野菜を栽培することによって、近隣の人達との話題のきっかけにもなる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはその季節毎の花が飾られてあり、玄関は季節の催しの人形等を置き、生活感・季節感を出している。	○	各居室から屋根つきのウッドデッキに出られ、季節感・開放感が得られる。 周囲は広々とした田園が開け、騒音や空気の淀みとは無縁である。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では皆さんとすごせるように、居室やベランダでは一人になられたり、家族とゆっくりすごせたりできるスペースがある。	○	和室には宗派に関係ない仏壇やアンティークな時計を置き、和めるよう工夫している。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・タンスはホーム備え付けであるが、整理棚・カーテン・布団等は家庭からの持込で個性的である。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いや空気の淀みがおこらないよう換気に気を付け、温度も外気温と大きな差がないよう常に気をつけている。 空気清浄器を適宜使用している。	○	利用者に外気温からも季節を感じて頂けるよう、寒すぎず暑すぎない程度の寒さ暑さで対応して、体の抵抗力を弱めないようにしている。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内は段差がなく、廊下・トイレ・風呂場には手すりやスロープを設備している。	○	職員も必要以上に手助けをせず、見守りは怠らないよう配慮している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室に各利用者の名前を記入したり、目印をつけたりして一人でも動けるようにしている。	○	失敗しても喪失感を与えない様に配慮し、残存能力や潜在力を探りながら対応している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに物干し場を作り洗濯物を干したり、長椅子を置き、外の景色を楽しんだりしている。	○	周囲は緑多い田園地帯であり、自然環境に恵まれている。施設敷地内に家庭菜園もあり、四季の新鮮は野菜が採れる。また、花を絶やす事のない様に手入れしている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. 理念に沿った運営に全職員が努力し、常に利用者の立場を考慮した支援を実践している。
2. 常に改善点や安心・安全面の工夫を怠らず、今より上のサービスの提供を意識し、早急な対応を心がけている。
3. 開設以来、匿名の投書や苦情の申出などは1件もない。
4. 「認知症ケア専門士」「学習療法士」をはじめ、事業者から職員へ呼び掛け専門的な資格取得に取り組んで、職員のレベルアップを図っている。
5. 1階がグループホーム、2階がホーム長の自宅であることから、夜間の緊急時対応も万全である。